

長万部町「神遊の桜」オオヤマザクラの樹勢回復措置・その2

1 はじめに

2022年7月5日、昨年に引き続き、長万部町字知来の「ごんべえの森」の中にある「神遊の桜」の桜の樹勢回復措置を行いました。この桜は、NPO法人「長万部町緑と樹を愛する会」の前理事長の丹野利春氏の所有のカラマツの林に囲まれた1本桜です。

2020年7月に出版された「日本の古桜 一本桜探訪 それでも生き残って欲しい桜たち」（葛城三千子著 右文書院）では、「神遊の桜」という名のカスミザクラと紹介されていますが、オオヤマザクラです。

2 樹勢回復措置

今回の参加者は、金田正弘樹木医、金田紘幸氏（金田正弘氏ご子息）、長万部在住の高野亮三氏、そして当社樹木医木戸口和裕の計4名です。今回の作業内容は、気根誘導を主としており、そのほかに枯損木除去、土壌改良を行いました。

(1) 枯損枝の切除

開花状況の確認のため、2022年5月6日に木戸口が訪れた際に、降雪と内部腐朽により2本の横枝の折損が見られましたが、この除去は、地元の高野亮氏が、既に処理済みでした。神遊の桜は、横枝の除去により樹形が縦長となって大きく変わり、まだ多くの枯損枝が目立っている状況でした。



神遊の桜 2022.05.06



神遊の桜 横枝の折損 2022.05.06



枯損枝 2022.07.05



高枝鋸による作業 2022.07.05

今回は、高枝用鋸や高枝用チェーンソーによる枯損枝の切除を行いました。切除した部分からも内部腐朽が進んでいたことがわかります。葉は小さく、枝も細かく混んでいるように見られ、サクラ類てんぐ巣病罹患の疑いのある枝もありましたが、今回は、大きな横枝を失った直後であるので、枯損枝の除去に留めました。

なお、枯損枝の切除面へは、トップジンMペーストによる殺菌剤の塗布をしています。

(2) 気根誘導

2021年11月9日に金田正弘樹木医とともに、気根誘導を行っており、垂直部分にピートモスなどの充填材の張り付けが必要なため、今回、竹材を建て込んで、土留工代わりに使用して、追加の施工を行うこととしたものです。

垂直部分の張り付けには、泥ダンゴ状のピートモスに接着性があるので、ピートモスに少量の稚内珪藻土を混入し、フジミン500倍希釈液を入れて練っています。今回の目玉としては、フジミンForest（細粒状）を加えてフルボ酸やリン酸で気根の発達を促すとともに、接着性を高めるための「がごめ昆布（「納豆昆布」の商品名）」と「細切りめかぶ」の食品残渣の海草類を少量混入したことです。これにより、充填材の材料は、全て植物由来のものばかりです。

竹材を建て込んだものの、垂直部分は下から充填材を厚く盛り上げていかなければならず、準備していたよりも多くの充填材が必要となるため、塗り付け程度に変更しています。また、考慮していなかった空洞部分への充填に多く費やしてしまいました。このため、木戸口が考えていたピートモス量では足りなくなり、金田樹木医がお持ちだった資材に頼ることになってしまいました。気根誘導には、充填材が多く必要であることを思い知らされました。

また、海草類は、乾燥したまま投入しましたが、フジミン500倍希釈液で練って、ぬめりを感じるようになってから投入攪拌すべきではなかったのではないかと後で思い直しました。



充填材料投入 2022.07.05



気根誘導完了 2022.07.05

(3) 土壌改良

土壌改良は、2021年に春、秋と2回行っているため、今回は軽めの作業にしました。穴あけ器で根の区域へのエアレーションをし、昨年実施した縦穴式土壌改良法施工地付近へ、砂川堆肥1袋（砂川レイクサイドの会から寄贈されたもの）を散布しています。「フジミンForest」（ペレット状）を、根の近くのエアレーションした穴に、投入散布しています。あとは、ミミズや土壌微生物の活動に期待したいところです。



エアレーション 2022.07.05



「フジミンForest」投入 2022.07.05

3 終わりに

長万部開拓の生き証人であるこの桜は、主幹の大部分の内部腐朽が進んでいるものの、胴吹きや気根を出して再生しようとしています。

2021年と今回の樹勢回復措置は、この桜の再生戦略に手を貸すものです。そのほかに手を貸すとすれば、この桜の周辺のカラマツ林の間伐ではないのかと思われます。カラマツ林は、防風効果はあるものの、「太陽がいっぱい」が大好きという桜にとって、ここではマイナス効果が大きいと思われます。



胴吹き、気根状況 2022.07.05



作業完了全景 2022.07.05